

令和3年度 愛心こども園 事業実績報告

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月 31日

事業の総括

はじめに

令和2年度4月愛心保育園から幼保連携型認定愛心こども園へと名称を変更、心も新たにスタートしてからお陰様で3年目を迎え、明るく希望に燃えてスムーズに事業の展開が進められていますことを、大変ありがたく感謝の気持ちで受けとめております。そのような中で今振り返ってみますと、この4月で創立40周年を迎え歴史の積み重ねの尊さを楽しみ感じているところです。これからも初心を忘れることなく、厳しい保育界の時代の変化に即対応できるよう、保育界の動向を見極めつつ、常に意識改革を念頭において日々、誠心誠意取り組んでまいりたいと考えております。また、当法人は時代の大きな変革の中にあっても、決して押し流されることのないようにこれからも揺るぎない信念をもって取り組んでまいります。また、教育・保育の資質向上を図るうえでは、職員一丸となって園内外研修等についても精一杯の努力を注いできており、その他、特別保育事業である延長保育や一時保育・地域活動事業等の運営にあたっては、保護者からのご要望にお応えしての事業を展開する等、熱い信頼を得ることができたと同時に、子ども達の心に寄り添いながら令和3年度も充実した内容ですべての事業に取り組むことができました。

ところで、いつも（愛心、第2愛心、仲井真こども園）3ヶ所の園がひとつの法人として心がけていますことは、時代の流れに沿って教育・保育制度の行方も見据えながら、地域の子育てセンターとして子どもの視点に立ち、更に全国の認定こども園や保育園に先駆けて取り組んでいる思いやり保育の実践認定園として当法人は誇りを持ちながら「手伝う行動・励ます言葉・ありがとうの心」を展開し、道徳教育の一環としてこども園とご家庭が三位一体となり、同じ子育て目標を共有しつつ、温もりのある教育・保育実践を行っているところです。これからも愛する子ども達の大切な命と限りない可能性を育むために、当法人の教育・保育理念である「保育は愛なり・愛は力なり～入所するすべての乳幼児の最善の利益を図り、個としての人権、人格を尊重する」という尊い思いを理念として掲げて取り組んでまいります。更に、教育・保育目標には「元気で明るい子ども」「思いやりの深い子ども」「個性豊かで自分らしく生きる子ども」「自分で考え、意欲的に行動する子ども」など、明るく元気で瞳輝く子どもの成長を目指し、令和3年度も取り組むことができました。

また、当園の特色である音体教育、お習字教育、漢字遊び、英語で楽しく遊ぼう、体操教室等を創立以来39年間継続し実践してきており、その結果「しなやかでたくましく元気で明るい子どもの育ち」に大きく寄与できていることも嬉しく思っております。

このように創立以来、全職員が心を一つに今日まで取り組み、設立 39 年の尊い歴史を積み重ねてまいりましたが、職員の子ども達に寄せる対応等も愛情が惜しみなく注がれ、力強い中にも柔軟性に富み、その成果は着実に実を結んでおります。その事は子ども達の日々の教育・保育活動にもしっかりと現れており、活気と喜びに満ち溢れています。また、安全管理及び環境整備、食育への取り組み、職員の処遇改善、更に資質向上に向けたキャリアパスを含めチューター制度など職員が働きやすい職場を目指して取り組み、事業計画に沿ってスムーズに進められましたことを、ご報告申し上げることに喜びと幸せを感じており、感謝の気持ちで受け止めております。

尚、令和 3 年度も例年通りこども園独自で、保護者アンケートを年 2 回実施致しました。その結果についても、教育・保育方針や理事長をはじめ、園長、職員の保護者に対する対応等 96%を超える多くの保護者様にご満足いただいていることを確認することができました。それは職員の日々の努力が報われていることを素直に心に受け止め、全職員喜びをかみしめており誇りに思いつつ、次年度に向けた大きな励みとなっております。

また、令和 3 年度、全国の日本保育協会、保育実践研究報告会において沖縄県では愛心こども園が「思いやりの心を育むことこそ道徳教育につながることを発見した」というテーマで研究し、さらに第 2 愛心こども園は「運動を通して育つ健康な体と心～子ども一人ひとりの心身の発達を目指して～」というテーマでそれぞれ研究し、両園とも「研究奨励賞」をいただくことができ職員にとって大きな励みとなりました。これからも尊い児童福祉の心をしっかりとって、子ども達の心に寄り添い、保護者の子育て支援についても更に信頼と安心感を寄せてもらえるよう、尚一層力を注いでまいりたいと熱い思いを寄せております。

それが地域に根ざした児童福祉施設としての当法人の大切なお役目であることをしっかりと心に受け止め、私共職員の使命として肝に銘じ、令和 3 年度の事業実績報告とさせていただきます。

令和3年度 第2愛心こども園 事業実績報告

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

事業の総括

令和2年度に引き続き、「新型コロナウイルス感染症」の対応に翻弄され、何かと不安を抱えながらの1年になりましたが、園内から罹患者が発生するたび、また緊急事態宣言等が発出されるたびに特別保育や登園自粛など、多くの保護者の皆様にも温かいご協力をいただきました。

更に子どもたちの登園が少なくクラスの日常保育や各行事が例年通りには出来ない状況の中、昨年度の課題を踏まえて見直しを図り取り組みました。また4～5歳児の子ども達や職員は、マスクをしながらの活動で、表情や声が伝わりづらく、もどかしい日々の中でしたが、感染予防対策にも気を配りながら、教育保育を進めることが出来ました。

コロナ禍2年目を職員一同試行錯誤の中、それぞれの置かれている状況の中で、意識と責任を強く持ちながら、乗り越えることができたと思っております。

【教育・保育について】

そのような中でも玉重福祉会の基本理念である「思いやり保育」～手伝う・励ます・ありがとう～の心を基本に据えて、「保育は愛なり 愛は力なり」という保育理念のもと、こども園としてスタートをきった令和2年に引き続き、15名の1号認定児の子どもたちを迎え、地域の子育てセンターとして、常に子どもや保護者の視点に立った、温もりのある保育実践を職員一同、精一杯行ってまいりました。

そして、今年度も当園の特色である漢字遊び、お習字、英語で遊ぼう、食育活動及び、毎月の行事等、子どもたちの教育保育に関することは、実施方法や内容など例年同様にはできませんでしたが、大きな行事である音体教育のステージドリルは運動会で発表し、ビデオを撮り、全世帯に配布したことで、多くの保護者様に喜んで頂きました。

通常の活動も全職員が気持ちをそろえて日々取り組む中で、職員の子ども達一人ひとりに対する対応も愛情を惜しみなく注ぎ、個々の自主性や個性を尊重したうえで、しっかりとした指導計画を立て教育保育を行うことができたと思っております。

【職員の資質向上について】

各研修においては、オンライン研修が主流になり、職員は園内で学びを深めることができ、キャリアパスの研修も同様に4つの分野に5名の各リーダーが研修を受講することができました。キャリアアップの仕組みがスタートし、職員の処遇改善も定着してきている中、各リーダーをはじめ職員が専門性を発揮し、やりがいを感じながら、安心して働き続ける職場づくりが構築されつつあります。更に日頃から子ども達のより良い成長のために、保護者支援にも奮闘している職員が、高い使命感と希望をもって保育の道を進みながら、個々の努力が評価されるようなキャリアアップの仕組みも深まってきていると感じております。

また、今年度は恒例の日本保育協会主催「第 16 回保育実践研究」において、「運動を通して育つ健康な体と心」をテーマに、1年半に渡り実践研究を積んでまとめた内容が、研究奨励賞として評価して頂けたことも、職員の学びと励みに繋がった事とっております。

【チューター制度・その他について】

また、取り組みを始めてから8年目となる、“チューター制度”については、職員マネジメントリーダーの役割を担う職員が、パートナー決定や時間調整等を行い、今年度も年 3 回の取り組みを実施することができました。保育教諭の確保がますます厳しくなっている現状の中、現在頑張っている職員が生き生きと意欲をもって職務にあたり、働きやすい職場づくりにも繋がるような取り組みのひとつとして、成果が得られたと思います。

更にその他、安全管理、環境整備についても事業計画通り進めることができ、特に消毒作業については、日々の消毒と毎週土曜日の一斉消毒等、各職員で分担し丁寧に行うことができましたことをありがたく思っております。

【おわりに】

令和3年度は、コロナ禍2年目の年になりましたが、根本的な部分としては地域の子育てセンターとしての役割をしっかりと認識しながら、地域に根差した児童福祉施設としての使命を果たせるよう、職員一同福祉の心をもって、子どもたちとそのご家族のより一層の幸せを願って、日々努めてまいりました。

これまで以上に多くの皆様に支えられたことを実感し、温かく見守っていただきながら、おかげ様で無事に令和3年度を終えることができましたことに、心より感謝申し上げ、事業実績報告と致します。

令和3年度 仲井真こども園事業実績報告

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

事業の総括

開園4年目を迎えた仲井真こども園は、4月1日時点での子どもの受け入れ人数が、4歳児が26名、5歳児が73名の合計99名でスタートしました。職員につきましては、園長の玉村隆をはじめ、保育教諭が10名、保育支援員2名、事務長、調理員、用務員が各1名の合計16名の職員にて今年度の教育保育運営を実施しました。

今年度においても、新型コロナウイルス感染症予防対策として、入園式は各クラスに分散して行いました。4月は、こいのぼり掲揚式や各クラス担任による、玄関先での家庭訪問を実施しました。5月に予定していた「国場川こいのぼりまつり」は中止となりましたが、去年中止となった「春の遠足」は、大型バスに乗って浦添にある大公園で思いっきり楽しむことができました。その後も、感染予防対策を施しながら、6～7月には子どもたちが楽しみにしている、「プール開き・水遊び」を行いました。小学校のプールは使用できませんでしたが、園舎の中庭にミニプールを設置し水あそびを楽しみました。9月には、「秋まつり」を行い、子どもたち自身で考え準備してきた食べ物屋さんやゲーム屋さんなど、いろいろな出店を各クラスに配置し楽しく遊ぶことができました。11月の小学校との合同運動会は中止となりましたが、こども園の園庭で「ミニ運動会」を行い、その様子をビデオで撮影しDVDを保護者へ配布しました。また、12月の生活発表会では小学校の体育館をお借りして、保護者の入場を制限し二部構成にて行いました。子どもたちは、リズムダンスやエイサーなど舞台いっぱい元気よく発表してもらいました。

このように、令和3年度は、「新型コロナウイルス感染予防対策」として、出来る範囲で工夫しながら行事等を実施してきました。それでも保護者の皆様に参加して頂く保育参観やお楽しみ会、祖父母のお招き会等への参加ができなかったことで、保護者の皆様には物足りなさもあったと思いますが、3月の「卒園式」には、73名の年長児が晴れやかに卒園を迎えることができ、一人ひとりの成長の喜びを感じながら、令和3年度を締めくくることができました。

このように、令和3年度もクラス担任、フリー保育士、管理職や事務の職員それぞれが、自分の役割をしっかりと担い、工夫を凝らし努力しながら、お互いに協力し合えたことで乗り越えられたと思います。職員には深く感謝しつつ、子どもたち、保護者、職員がもっと笑顔になれるよう、また、地域の方たちとの交流も大切にしながら、今後とも努力を惜しまず事業運営に取り組んで参りたいと思います。